



特別支援教育ほっと通信



西部教育局
お役立ち情報
令和7年2月号

1年間の成長を確認とともに、次に目指す姿を明確にしましょう。
また、新年度のスタートで子どもたちが困らないように、**確実な引継ぎ**をしましょう。

- 個人ファイルを作成し、資料等を整理して綴りましょう。(インデックスを活用し業務の効率化を図りましょう。)
 - 「いつ」「だれと」「何を」「どのように」を確認しながら、引継ぎの準備をしましょう。個別の教育支援計画、個別の指導計画、個人ファイル等を十分に活用しながら、引継ぎを行いましょう。
 - 個人情報の取扱い及び保管場所に留意しましょう。
 - 個別の教育支援計画は、指導要録の指導に関する記録の保存期間を参考に、5年間保存が望ましいと考えられます。保存方法については、学校の設置者である当該市町村(学校組合)教育委員会に確認しておきましょう。

大きく学びの場等が変化する場合(進学や就職時)は、「困難さ」だけではなく、「効果的な環境整備」や「支援のこつ」など、具体的に支援内容を引き継ぐことが大切です。



中学校から高等学
校への引継ぎについ
ては、鳥取県教育委
員会高等学校課が
作成したリーフレット
(高等学校課HPに
掲載)を御確認くだ
さい。



引き継ぎ内容の一例です。この他、就学支援に関することや諸帳簿等の引継ぎも行いましょう。詳しくは「特別支援教育の手引 令和4年3月改訂（令和6年7月一部改訂）鳥取県教育委員会」をご覧ください。

【學習指導】

学習指導に関する資料

- 教室環境
 - 各教科等で使用した教材・教具（プリント類、指示書・手順書 等）
 - 授業や生活、行事等の様子（写真、作品の写し 等）
 - その他学習の参考となるもの（写真・ビデオ 等）
 - 授業研究会の指導案や研究会記録
 - 個別の教育支援計画の評価・見直し
 - 通知表の作成

通知表は、学習したことの羅列やエピソード記録ではなく、児童生徒の学習への取組の様子、個人目標に対する評価や変容の様子等を簡潔に記載することがポイントです。

- 個別の指導計画の評価・見直し

 - 児童生徒の実態の加筆
 - 次年度の「個別の指導計画」(案)の作成
 - 指導内容、指導における工夫、児童生徒の変容等についての評価と見直し
 - 目標及び指導内容等の達成状況の記録

交流学級担任との連携

- 年間の指導等についての反省

次年度の教育課程についての協議・編成

- 各教科／自立活動／各教科等を合わせた指導／交流及び共同学習 等



特別支援学級における諸帳簿等について

令和7年2月 鳥取県教育委員会事務局西部教育局

□指導要録（特に「指導に関する記録」について）

●A様式（数値で評価）かB様式（記述で評価）かを確認してください。

【A様式…小学校又は中学校に準ずる教育かほぼ可能である児童生徒の場合（下学年適用も含む）】

※下学年適用の場合→適用した学年の評価規準に基づいて評価し、評定を記載します。

→「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄にその旨を記載します。

【B様式…知的障がいのある児童生徒が、知的障がい特別支援学校の教科等を取り入れて教育を行う場合】

※小中学校に準ずる教科と知的障がい特別支援学校の教科の両方を取り入れて教育を行う場合は、A様式とB様式の両方が必要となります。

〈参考〉「特別支援教育の手引」令和4年3月改訂（令和6年7月一部改訂）鳥取県教育委員会 36~42ページ

□出席簿・児童生徒名簿

□就学支援関係の書類

●個人ファイルを作成し、過去の記録（経過）等が必要な時に確認できるようにしておきましょう。

□各市就学支援委員会または西部町村就学支援委員会の審査資料（個人調査票、診断書、観察票 ←いわゆる3点セット）

□保護者の入級承諾書

□各市就学支援委員会または西部町村就学支援委員会の審査結果

□各市町村（学校組合）教育委員会の就学決定通知

□校内就学支援委員会等の記録

※新就学児の就学決定通知は、申請した施設（園等）に届いています。当該教育委員会に確認し、写しを保存しておきましょう。

□個別の教育支援計画（必ず作成してください）

●学校生活だけでなく家庭生活や地域での生活を含め、長期的な視点で幼児期から学校卒業後までの一貫した支援を行うために作成します。

〈参考様式〉「特別支援教育の手引」令和4年3月改訂（令和6年7月一部改訂）鳥取県教育委員会 63~72ページ

□各教科等の年間指導計画（必ず作成してください）

●児童生徒が履修している各教科、領域等のすべてのものを作成します。

※単元名のみの題材配当表とは異なります。

【小学校又は中学校に準ずる各教科等の場合】

- 学習時期、単元名、目標、学習内容、評価規準等の欄を設けましょう。

【知的障がい特別支援学校の各教科等を選択する場合】

- 学習時期、単元名、目標（付けたい力）、学習内容等の欄を設けましょう。
- 自立活動の年間指導計画も必要です。
- 「各教科等を合わせた指導」の形態（生活単元学習、作業学習など）を取り入れる場合も、その年間指導計画が必要となります。また、合わせた各教科等の目標に準拠した評価の観点による学習評価を行います。
- 「各教科等を合わせた指導」を行う場合、授業時数を適切に定めることが大切です。関連する教科等を教科別に指導する場合の授業時数の合計と概ね一致するように計画する必要があります。
- 自立活動や各教科等を合わせた指導については、1年間を見通した計画が年度当初に立てにくい場合があります。
まずは、1学期分あるいは前期分の計画を立て実施し、児童生徒の実態に応じて残りの計画を立てていく方法も効果的です。また、指導内容等に変更があった場合は、軌跡がわかるように見え消して修正しましょう。

●各教科で採択されている教科書名を記載してください。

- 適切に教科書を給与するために、児童生徒一人一人の「教科書給与リスト」等を別途作成しましょう。

〈参考様式〉「特別支援教育の手引」令和4年3月改訂（令和6年7月一部改訂）鳥取県教育委員会 88~92ページ

□自立活動の個別の指導計画（必ず作成してください）

●自立活動の内容は、個々の児童生徒の実態に合わせて設定するため、個別の指導計画を作成します。

〈参考様式〉「特別支援教育の手引」令和4年3月改訂（令和6年7月一部改訂）鳥取県教育委員会 73~76ページ

□各教科等の個別の指導計画（必ず作成してください）

●当該学年及び下学年の学習を行う場合、年間指導計画に支援方法と評価の欄を追加し、記入していく形式でも可能です。

〈参考様式〉「特別支援教育の手引」令和4年3月改訂（令和6年7月一部改訂）鳥取県教育委員会 77~87ページ